

令和4年度 利用者懇談会 於：関戸図書館

日 時：令和4年11月26日（土） 午後1時30分から午後3時まで

場 所：関戸図書館 活動室

出席者：利用者：5人

図書館職員：6人

図書館長、中央図書館整備担当課長、企画運営係長、
関戸図書館長、関戸図書館職員、企画運営係担当（1名）

1. ボードゲーム体験（30分）

利用者5人、図書館長で2種類のボードゲームを体験

2. 図書館について意見交換（55分）

内容（要旨）

- （1）図書館長挨拶
- （2）図書館について意見交換
- （3）閉会

（1）館長挨拶

図書館： 図書館を普段使っていらっしゃる方も使っていらっしゃらない方もいると思うが、図書館に対して、こういうことをしてもらいたい、こういう活動ができればいいのではないかと聞いたことを、ざっくばらんに自由にお話しただければと思う。図書館では利用者懇談会に、普段図書館を使っていない人に来てもらう方法を模索しており、今回ボードゲームを取り入れてみたが、利用者懇談会へ参加のきっかけになったかどうかについても伺いたい。

（2）図書館について意見交換

利用者： 利用者懇談会は毎年やっているのか。参加人数などを聞きたい。

図書館： 例年の参加者は5～6人である。昨年利用者懇談会では、高齢者の居場所としての図書館について話題になったことがきっかけで、参加者の方と協働で、新しい企画を立ち上げ、今年の秋にイベントを実施した。

利用者： 普段は日野の図書館を利用しており、日野市で図書館協議会の委員もしている。
多摩市の利用登録率を知りたい。日野市は、1年間に1度利用があった人を有効利用者としてカウントし、昨年は18%であった。

図書館： 多摩市の人口に対する登録者の割合は現在25.4%である。ちなみに、貸出冊数は同規模の自治体では3位であり、予約も第2位である。利用者の年齢層を見ると高齢者の割合が高く、学校に行っている世代が図書館離れしているのが現状だ。

利用者： 今回、「ボードゲーム」を行うとあったので利用者懇談会に参加をした。

図書館： 数年前から全国的に、図書館利用の少ない若い世代の利用促進や居場所作りのためにボードゲームを取り入れる試みが広がっている。今回、利用者懇談会にボードゲームを取り入れたのは、図書館に普段来ない方も含めて意見を聞きたいと考えたためである。

利用者： ボードゲームをやりたい人はたくさんいると思うので、宣伝が重要である。聖蹟桜ヶ丘駅周辺にはボードゲームカフェがなく、ボードゲームを遊びたい人は、交通費を払って電車に乗ってボードゲームカフェへ行く必要がある。

それに対し図書館の優位性は無料でできることである。ボードゲームが好き人は自身でもボードゲームを持っているので、場所だけ提供してもらえれば、来る人はいるはずである。図書館にボードゲームを置いて貸出を行っている自治体があるということだが、多摩市はまだやっていないのか。

図書館： 多摩市はまだやっていない。ボードゲームの貸出は、駒の管理や、紛失した場合の対応など、実施するにはハードルが高い。

利用者： 今回のようにカードだけで構成されたゲームであれば、枚数を数えるだけですむため、そういったやりやすいところからやるのがよいのではないか。

図書館： イベントの実施は、図書館はあくまでいろんな情報が得られる場ということで、図書館を利用してもらうのが大きな目的である。例えば図書館でボードゲームのイベントを行った結果として、参加した方が、図書館の他の資料にも関心を持って使ってもらわないと意味がないと考えている。単に貸しスペースになるのではなく、図書館の利用につながるかどうか考えなければならない。

利用者： 今日やったゲームは楽しかった。利用者懇談会にボードゲームを結び付けた意味はよく分かったが、もしかしたら、ボードゲームがあることで今回利用者懇談会に来なかった人もいるのではないか。

図書館： 実際にボードゲームがあるから来なかったという方もいる。そういう視点もあるということに気づかされた。

利用者： 子どもなどを利用者懇談会に呼び入れたいのかとは思っていたが、そうでないならば利用者懇談会という大切な場所とボードゲームを結び付けるのはおかしい。ボードゲームは利用者懇談会と切り離し、図書館のイベントの一つとしてやればよかったのではないかな。

図書館： 利用者懇談会という大切な場所にはたくさんの方に参加いただき、様々な意見をいただきたいと考えているが、周知してもなかなか参加につながらないのが現状だ。

利用者： 日野市での、図書館の利用者懇談会の開催状況を知りたい。

利用者： 日野市では利用者懇談会をやっていない。以前、練馬区の利用者懇談会に参加したことがあるが、学識関係者や市の教育委員が8割ぐらいで一般の参加者は2割ぐらいであった。誰でも来てくださいというよりは、図書館側がお願いして来てもらった参加者が20人ぐらいであった。

利用者： 図書館の事業に関心を持っており、利用者懇談会にはよく参加している。今回新しい手法で利用者懇談会を行うことで、どんな参加者がいるのか興味があった。図書館のいうとおり、利用者懇談会で一般の人の声を聞きたい、と企画しても人が来ない。この実態をどう考えるかだが、図書館の発展を願っている者からすれば、もっと利用者懇談会の回数を増やして、当たり前のようにみんなが来られる雰囲気作りが必要ではないか。年に1回2館ずつやるのでは少ない。

公民館はグループでの利用がメインだが、図書館利用者はほとんど個人なので、それぞれ望んでいることが微妙に違っているが、お互いがどう思っているかがわからない。その個人をどうやって呼び込むかがとても難しい、と何年も見ていて思う。そういうやり方がいいかどうかはともかく、練馬区のように事前に学識経験者等に声掛けをするといった形もある意味しかたがないと思う。

利用者： 利用者懇談会に来る人数が少なくてもよいと思うようになってきた。利用者懇談会にたくさん来てもらうために無理なことをやる必要はないのではないかな。

利用者： 利用者懇談会には、図書館を応援したいという理由で来ている。図書館について語りたいというのは少し違う。

利用者： 以前、図書館協議会で利用者懇談会の参加者が少ないので何か人を呼べるものと一緒にしたほうがいいのではと提案した。今回、ボードゲームをやるというので、様子を見に来た。

利用者懇談会は基本的に、図書館に対して言いたいことがある人、こういう風にしてほしい、こう変わって欲しい、利用していて困ることがあるなど、そういうことを言うために来るものだと思っている。そうはいても、参加者はそういう気持ちを常に持っている人、図書館に対する応援の気持ちや、いつも不満を持っている人は何もしなくても、来て言いたいことを言って帰ると思うが、普通に図書館に来ている人達の中にも、心の中で図書館に対して思っていることを言えない人がいるのではないかと思うので、そういう人たちにも来てほしいと思っている。どうやって来てもらうのかは難しい。

今回のボードゲームと組み合わせる試みで、普段来ない方が来てくれたのは、これからにつながると思う。ボードゲームがあるから来たくないという人には、ボードゲームは前半だけなので、後半の利用者懇談会の部分から遅れて来てもらうということもできたのではないかと。

利用者： 日野市では図書館未利用者にもアプローチしてアンケートをとっているが、回答率が低い。一方、ヘビーユーザーの回答率がいい。実際は図書館に対して何も思っていない未利用者が半数以上いるのではないかと。

利用者： 多摩市は利用登録率が低いというが、全国的にみてもそんなに低くない。日野市が20%を切ったというのは意外だ。日野市民にとって図書館は当たり前の施設になっているという長い歴史がある。人数が減っているとすれば、図書館に魅力がなくなったのではなく、デジタル化によって他のコンテンツで満足している層が増えているのではないかと。

事実、日本全国で図書館の利用率は下がっている。そこに、自治体に予算を使って図書館に投資していくという意味を認めさせないといけないが、そこは非常に難しい。まったく図書館に興味が無い人からすれば、当然もっと他の政策にお金を使うべきという声が大きくなってきてしまう。私たちはそれをとても危惧していて、図書館は守るべきものであるからもっとみんなが関心を持って図書館の大切さに気付いてもらって、当然お金を使っていきべきということをみんなで確認していきたい。図書館は一步一步それを実現するような企画をして盛り上げてほしい。

海外では図書館は多様な使い方ができるという認識が広がってきているが、ボードゲームは図書館に求められる多様さに応えていく手段の一つだと思う。場所があってコンテンツがあればそこに人は集まってくるし、やり方によっては本に結び付けることができる。ボードゲームの他にもそういった新しい使い方をみんなで考えていきたい。市民の中にもアイデアを持っている人がいると思うので、こういう機会をもっと設けてほしい。

図書館： 開催頻度を増やすのは難しい。広報をして月に1回こういう形で開催したとしても、参加者は同じコアメンバーになってしまうのではないかと考えている。

利用者： 最近のことはわからないが、調布市の場合は分館で、持ち回りでやってきたそうだ。それぞれの参加者は多くはないと思われるが、館長と担当が出かけて行って声を聞くといったやり方をしてきたと聞いている。あまり一度に大勢集めようと思わなくてもいいのでは。

図書館： 図書館をたまに利用される立場から、図書館に対して素朴に思うところや要望があれば教えてほしい。新聞を読みに来る方や、館内で本を読んで帰っていく方はけっこう多い。そういう方は個人で利用されているので、意見を聞く機会がなかったが、この場でぜひ聞きたい。

利用者： これまで図書館の利用者登録はせず、館内で本を読むかたちで図書館を利用してきた。私が聞きたいのは、図書館でボードゲームをやらせてもらえるのか、それとも図書館と協力する形であればそういう会をやらせてもらえるのかということだ。図書館でボードゲームができれば人は来ると思う。

図書館： きっかけ作りとして、ボードゲームをやっている図書館が全国にはあるが、多摩市にはノウハウがないため、普段ボードゲームをしていて図書館とぜひやりたいという方がいれば大変ありがたい。

利用者： テーブルトーク・ロールプレイング・ゲーム（以下 TRPG）が好きな人は、本を読むのが好きな人が多い。図書館で TRPG を体験してもらうのがよいのではないかと。
TRPG にハマってくるとキャラクターを作成するにあたって、より深く遊びたいと思ったらリアリティが欲しくなり、そのリアリティを出すためには調べものが必要になってくる。そして、調べものに適しているのは図書館である。

図書館： ご提案の TRPG はゲームを通じて幅広い年代に図書館で物が調べられるということがリアルにわかってもらえ、よいと思う。

利用者： 今日のようなボードゲームの会であれば、おそらく図書館で続けていくことはできる。TRPG に触れる機会はぜひ欲しい。本が好きな方で普段 TRPG に触れないような方や、各年代の人が混ざって遊ぶと絶対に面白い。お互いに知らないもの・ことをゲームという形を通して交換できるので、開催したほうがよいと思う。ただ、楽しくないと続かない。

利用者： 図書館は出会いの場といわれているが、そのチャンスはあるようであまりない。これからの図書館は出会いの場、広場として中央図書館はそれをどんどん実践していかないと広がっていかないと。だから、TRPG はとてもいい提案だと思う。

図書館： 図書館もいろんな企画を行い、たま広報や市の公式 Twitter などを通して情報発信も行っているが、あまり知られていない。ただ、図書館は個人でも団体でも楽しめる場所なので、別に集わなくてもいいし、個人で過ごすというのもよいと思う。なにも無理やり何かのイベントに参加してもらおうとは思っていない。

ただ図書館は本やデータベース、インターネットなどいろんな情報にアクセスでき、調べようと思えば調べられるし、カウンターの職員に聞けばある程度のことが答えられる。困った時は図書館に来てほしい、そういう場であるということを知ってほしい。そのために、人を引き入れられるようなゲームのイベントをやってみるというスタンスである。

利用者： 勉強等が苦手な人にも図書館に来てほしいということか。そういった人が図書館に来るメリットを提示できればよいのではないか。例えば、来館ポイントなどの実利で引き寄せられた人が、本につながったりするのではないか。

利用者： この間の図書館協議会で、委員から中央図書館ができるが人員は足りているのかという質問に対して、やりくりして頑張るという趣旨の回答であった。それに対し、職員が疲弊するのが心配だという意見もあった。職員が疲弊しないようにしてもらいたい。

図書館： 今のメンバーでやるからにはメリハリをつけなければならない。中央図書館へある程度人を寄せるとしたら、その分地域館のサービスを抑えていくことが必要になる。人が足りないというのは何を言っているのか。

利用者： 本館の現状はわからないが、単純に考えてバックヤードの仕事は変わらないと思うが、カウンター人数は明らかに今より必要となり、さらに開館時間も増える。素人からみても、人員が増えるのが正しいと思うが、いかがか。

図書館： カウンターについてはシフトを組んでやりくりする予定である。サテライトカウンターを含めた全てのカウンターに常時職員を置くということ難しいと思っているが、貸出業務はセルフ貸出機でおそらく 90%以上の貸出は自動化され、省力化されると考えている。業務分担は内部で検討しており、当然、職員が疲弊しては困るので、そこはしっかり考えていきたい。

(閉会)